

2020 年度
学生研究補助（インターン）を募集している研究プロジェクト

プロジェクト名	イノベーション創出の基盤強化のためのメカニズム分析：SPIAS を活用して
専門性	特に問わないが、科学技術イノベーション政策または社会調査に関する知識があると尚可。
内容	<p>1. プロジェクトの概要</p> <p>国際共同研究や研究者の流動性・多様性の促進策、研究施設の共用化といった科学研究活動へのインプット変動要因が、研究者の研究アウトプット及び経済的なアウトカムに与える効果とそのメカニズムを明らかにする。その際、公的な研究ファンディングとその成果（論文や特許）については、科学技術イノベーション政策立案支援ツール（SPIAS-β）の開発のために蓄積してきたデータや知見を最大限活用する。</p> <p>また、関連する先行研究および政策事例をレビューし、政策効果の予測・評価のためのシミュレーションモデルを開発することにより、過去の政策の効果を定量的に評価するとともに、新たな政策の改善の方向性を検討する。最終的には、以上の知見をもとに SPIAS を改良し、エビデンスベースの政策立案の基盤強化に貢献する。2020 年度はデータセット入手して、経済モデルの実証を行い、最終的にはメカニズムの提案と政策効果の予測を行い、統合的な政策プラットフォームの構築を進める。</p> <p>2. インターンの業務内容</p> <ul style="list-style-type: none">日本および海外の政策文献レビューの作成、整理。政策効果の予測・評価のためのデータセットの構築、分析。
業務に必要なスキル	・ワード・エクセル・パワーポイントの標準スキル（英語文献の読解力があるとなお良い）
身につく知識・スキル・経験	・科学技術と社会の分野の海外の政策及び研究動向の知識 ・科学技術イノベーション政策に関わる研究者・行政官、その他関係者との人的ネットワーク

プロジェクト名	新興・融合科学領域における「予見・分析手法」の検討と人的ネットワークの形成
専門性	専門は限定しないが、科学技術イノベーション政策や科学と社会への関心及び関連知識があると尚可。
内容	<p>1. プロジェクトの概要</p> <p>国内外において、新興・融合科学領域の重要性が認識され、その取組が加速している。エビデンスに基づいた新興・融合領域政策の具体化のためには、国内外の新しい手法や取組から隨時示唆を得ながら、「予見・分析手法」を整理・体系化し、政策形成の各場面・目的に応じて適切に組み合わせて活用していくことが重要となる。それらを支援する仕組みの構築に向け、モデルケースの創出と、これを実現する人的ネットワークの形成が必要となっている。</p> <p>本プロジェクトでは、新興・融合科学領域において予見されるインパクトを多角的に把握し、政策形成に資するエビデンスを作成し政策形成プロセスに働きかけをおこなうために、①「予見・分析手法」の整理・体系化、②「予見・分析手法」の実証（プロトタイプの構築・試行）と、これを通じた、政策形成において実践的に活用されるための課題抽出、③プロジェクトを通じた、研究者、政策担当者のより実践的なネットワークの構築を行う。以上のプロセスにおける中間アウトプットとしての知見についても、政策担当者に向けた成果物としてまとめる。</p> <p>2. インターンの業務内容</p> <p>上記プロジェクトに関連して、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「予見・分析手法」の文献収集や専門家へのヒアリングを通じた知見の整理・体系化の補助 ● 政策形成において実践的に活用されるための課題抽出の補助 ● ワークショップや研究会の運営補助 <p>を行なっていただきます。</p>
業務に必要なスキル	英語文献の読解力とレビューの作成能力
身につく知識・スキル・経験	<ul style="list-style-type: none"> • フォーサイト活動等「予見・分析手法」の知見 • 論文をサーベイしまとめのスキル・経験

プロジェクト名	医療分野の特性に合った基礎研究・応用研究・実用のイノベーションエコシステム構築に資する調査研究
専門性	特に問わないが、科学技術イノベーション政策、または医療・生命科学に関する興味関心があるとなお可。
内容	<p>1. プロジェクト概要</p> <p>ライフサイエンス分野での基礎研究～実用のトランスレーションを一層効率的なものとするために「企業主体での開発への移行の遅れ」の理由を解明し、克服する手法を開発するプロジェクトです。具体的には、消極的な企業行動の要因を解明し、研究シーズへの評価行動の変容を促す政策を新たに設計します。</p> <p>医療分野の研究開発の「橋渡し」では、研究機関等で開発されたシーズに対して民間企業が将来的な経済価値や事業可能性等の評価を行い、投資判断を行います。しかし、現在はこのプロセスが必ずしも円滑に進んでいくとは言えない状況にあります。特に民間資金が誘発されるインセンティブやメカニズムの研究・分析が求められており、現在、国が実施している橋渡し関連事業を含め、技術移転プロセスにおけるボトルネックの整理と、その課題解決手法の深堀が必要となっています。</p> <p>2. 業務内容</p> <p>本研究では政策提言に向けて様々な作業を行いますが、中でもインターンの方には以下の仕事をお願いしたいと考えています。</p> <p>A.過去の「橋渡し」事業レビュー</p> <p>過去の実施事例を対象として、報告書に加えヒアリング等を通じて、成功要因/失敗要因、資金投入の効果(波及効果含む)についてのレビュー。</p> <p>B.「橋渡し」事業に関する評価手法の開発</p> <p>Aを通じたレビューをもとに、トランスレショナル・リサーチの成功が期待できる条件を定量的な分析により整理・抽出するためのデータ整備など補助作業。</p> <p>C.ハイブリッド・ファンドの理論的検討・事例研究</p> <p>ハイブリッド・ファンドについて、先行事例についてのケース・スタディ（イスラエルにおける yozma ファンド、シンガポール等）。</p>
業務に必要なスキル	特に問わないが、統計ソフト(R, Stata, SPSS)を利用した基本的な分析のスキルがあるとなおよい。ライフサイエンス政策に関する英文資料を読解してまとめるスキルがあるとなお可。
身につく知識・スキル・経験	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイエンス分野の国内外の政策動向に関する知識 ・公的なファンディングプログラムの設計に関する知識、経験

プロジェクト名	地震分野の研究成果の実効的な活用・社会実装方策に関する分析
専門性	特に無し。地震防災分野への興味関心や、何らかの社会調査の経験があれば尚よい。
内容	<p>1. プロジェクト内容</p> <p>我が国の地震予測は地震発生確率の長期評価、全国地震動予測地図といった形で公開されていますが、地方公共団体や民間企業、国民に十分認知されていない、また、認知されても社会的な影響を鑑みると活用が難しいという問題があります。本研究は、地震・防災研究の成果の活用に対して、行政が現状行うことができていること、できていないことは何か、地震・防災研究に対するニーズにはどのようなものがあるのか、関係者に対するヒアリング・アンケート調査をもとに明らかにするのが目的です。また、関係者を集めたワークショップ、国内外の事例研究などを実施し、地震・防災研究と行政をマッチングするための形態や方策を提案します。</p> <p>2. インターン生にお願いしたい仕事</p> <p>下記の作業を担当の研究者と共同で進めさせていただきたいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地震調査研究推進本部が毎年行っている自治体向けアンケートの分析補助 ・ 地震・防災研究が実装において役に立った事例に関して、国内外を対象にした調査の補助。国内に関してはヒアリングへの同行も含む。 ・ 民間企業や地方自治体で地震・防災研究に対してどのようなニーズがあるのか、当事者（地方自治体・民間企業）や関係者（地震・防災研究者など）に対するヒアリング。
業務に必要なスキル	特に無し。海外事例調査の際に英語の資料の読解ができれば尚よい。
身につく知識・スキル・経験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政策形成プロセス一般に関する知識 ・ テキスト分析手法の獲得 ・ 地方自治体や企業における防災対策立案に関する知識